

特集1・これまでの3年を、将来へつなげる ~学生座談会~

構成員全員参加型でのエコキャンパス化を目指し、「エコ宣言ウェブサイト^{*1}」の展開を始めました。そのワーキンググループの学生の皆さんに集まっていただき、2008年10月に新たに就任された松本総長、大西理事（施設・情報基盤・環境安全担当）と意見交換を行いました。過去3年間の京都大学の環境活動について環境報告書をもとに振り返り、今後の構成員を巻き込んだ展開について考えました。

◎3年間の取り組みと「エコ活動」

浅利 環境報告書の3年を振り返ってみて、どう思われますか。

松本 過去3年間の環境報告書（詳細版）を見ての感想は、1年目は情報量も多く意気込みが感じられますが、2年目は環境目標の設定、3年目は京都大学方式の取り組みをしているものの、やや薄い印象があります。

浅利 環境負荷データの公開は、1年目は詳細版に掲載していましたが、2年目以降はホームページでの公開のみとしています。

松本 情報の公開は、人の目に触れることが大事です。詳細版にも掲載するのが良いのではないのでしょうか。現実を見るという意味で、環境報告書で京都大学の環境負荷データを見せるということは、とても重要なことだと思います。

大西 検討の余地がありますね。

省エネルギーの取り組みを進めるために、桂キャンパスの建物には研究室ごとに電力使用量の計測器が付いていますが、各研究室の使用量データの公表にはなかなか合意が得られません。他の研究室の使用状況を知ることで、自分の研究室の使用状況はどうか、確認できるような仕組みを作りたいと思っていますが……。

「エコ宣言ウェブサイト」についても、環境配慮行動によって何が改善されるのか、構成員に見えるように示すことが必要でしょう。

松本 これまでの環境活動について、全員参加型という概念は良いと思いますが、構成員に切迫感がなく、なかなか実行に移せていません。「エコ」という言葉は、皆が聞き飽きてしまっています。これからの環境活動は、戦略を変えなければいけないでしょう。「エコ活動」は、徹底的に無駄を排除しなければならないのです。地球上では人口が増え続けていて、限りある資源の状況で、将来、今と同じく生存可能な社会ができるでしょうか？ そういった根本的な問題に目を向けて、環境への意識改革をしていく必要があるでしょう。

浅利 総長がよくおっしゃる言葉に、「サバイバビリティ（生存可能性）」という言葉がありますね。

松本 環境問題は、簡単なものではありません。「エコ活動」と

いうものを、免罪符としてはいけないのです。

浅利 「エコ」が「エコ活動をやっている」という満足感の「エゴ」にならないように気をつけたいといけませんね。

松本 物事をマクロな視点で、30年先を見て考えることが大事です。電気の使用量が増えることはいけないと言うと、大学で研究ができなくなります。研究に必要なだから使っているし、新しい研究をしないことには解決策も見つかりません。解決するには、全く環境負荷のないクリーンなエネルギーを作ることですが、もしそれができても、CO₂は減るわけではありません。また、資源も減り続けています。

こうした問題に、京都大学は安全な代替物を開発するなど、研究面で貢献できることも発信したいと思っています。小さな積み重ねによる環境負荷の削減も大切ですが、世界を広く見わたして、日本で、世界でどれだけ環境負荷が減らせるかを同時に考える必要があると思っています。

大西 「マイボトル」^{*2}のような取り組みは、意識改革のきっかけには良いと思います。でもこれだけでは、根本的な解決にはなりません。身近な環境配慮行動に取り組みながらも、大きな問題の解決策を考える、そのバランスが大事ですね。

水嶋 取り組みをする時は、初めに、どうしてその環境配慮行動が必要なのか、という根拠をはっきりさせておく必要があると思っています。

松本 環境配慮行動を実行することは、とても大切なことです。でも、環境活動を行う理由には、大きな環境問題があるということを示さなくてはなりません。環境問題について無関心に過ごすことは、将来の自分にとって大きな問題になるのです。

環境報告書では、京都大学で行われている環境に関する研究や活動の紹介、具体的なデータ、思想的な部分も含めて充実させ、世界全体に対して京都大学が貢献する部分を発信する必要があるでしょう。

千葉 研究をするうえでも、とても刺激を受けました。これからの研究課題を発掘するという意味でも、現状をよく知りたいと思います。

◎エコ宣言ウェブサイトを活用した今後の展開

松本 ところで、日本はどれくらい食糧、水、エネルギーなどを輸入しているか、わかる人はいますか。こうしたデータも見て、世界の状況を知る努力をしましょう。

ほとんどの人は将来起こり得る問題は他人事で、自分たちは安泰だと思っていますが、そうではありません。

発展途上国の生活水準は上がってきますが、先進国は生活水準を下げることはできないでしょう。だから、今の生活で無駄を減らす必要があるのです。

「エコ宣言に参加してほしい」だけではなく、これからの自分たちの世界はどうなるのか、危機が迫っている現実を伝えてください。

浅利 「エコ宣言ウェブサイト」では、海外の事例も見せたいと思っています。

藤本 海外の大学の環境活動事例を調べました。それらを参考に、構成員へ強いメッセージを発信できるように、また海外へも発信できるように、工夫します。

根本 京都大学の長所は、環境に関心を持っている学生や教員の数が多いことです。これからは大学と学生が連携できるよう、構成員を巻き込み、その能力が発揮できるような場があればよいと思います。

松本 京都大学には「京都学派」という世界でもユニークな哲学思想があります。思想を持って、研究や開発をしてください。そのためには、将来のことに確信を持って取り組むことです。

松井 これからの取り組みを進めるうえで、喝を入れてもらいました。

水嶋 環境問題を大きな視点で長期的に見て、今何をすべきか、その環境配慮行動にどんな意味があるのかを考えて取り組みたいです。

千葉 「エコ宣言ウェブサイト」を通じて積極的にコミュニケーションできるようにし、最終的には目に見える人間関係を形成できたらと思います。

松本 「人からどう見られているか」という状況や意識を作り出



■参加者の紹介



松本 紘
総長



大西有 三
施設・情報基盤・
環境安全担当理事



浅利美 鈴
環境保全センター助
教／環境エネルギー
情報管理サイトワー
キング幹事



千葉知 世
地球環境学会修士1回



根本潤 哉
人間・環境学研究科
修士課程（卒業）



藤本成 彬
工学研究科修士1回



松井 健
農学部3回



水嶋周 一
工学研究科修士1回

す必要があると思います。レジ袋削減の取り組みは、ほとんどの人がもらっていない、という状況を作り出したので、意識付けができたと思います。

桂キャンパスのエレベーターは工夫されていて、乗ることで使用される電力量が示されています。そういったものが目につくと、利用を考えるきっかけになるのではないのでしょうか。

大西 「見える化」は大事ですが、お金がかかります。電力計測器を大学全体に導入すると、数十億円かかる計算になります。これも、技術開発によって安く導入できるようになればいいですね。

松本 ともかく、データをいろいろ調べてみることは、良いことです。いろいろなデータを集めてみて検討することで、これからの問題に真剣に取り組むべきことが見えてくるでしょう。皆さんのこれからの発信に期待します。

用語解説

※1 京都大学エコ宣言ウェブサイト： 構成員参加型のエコキャンパス化を目指し、その推進の一環として立ち上げたウェブサイト。キャンパスにおける環境配慮行動について、個々人の実践状況や今後の宣言を行うことができ、その効果試算値などが提示される。その他にも、幅広く環境への取り組みや研究について発信していく予定である。(15ページ参照)

※2 マイボトル： 2008年度より、レジ袋の次のターゲットとして、ペットボトルの使用量を減らすための検討・試行を開始。マイボトルによる飲料提供システムの導入をモニター（530人を公募）実験により検証中である。(39ページ参照)